

看護栄養学部 健康栄養学科

系列 (領域)	授 業 科 目 名	履修 方法	履修単位数		備 考	
			学部共通	専門科目	シラバス 掲載頁	
育基 科礎 目教	臨床心理学概論	L	2			32
	認知症援助論	L	2			34
専 門 教 育 科 目	専 門 野 基 礎 分 栄養教育論 I	L		2		36
	臨床栄養管理学 I	L		2		38
	運動生理学	L		2		40
	専 門 野 分 応用栄養学 I	L		2		42
	看護学概論	S		1		44
計			4	9		
合 計			13			

## シラバス参照

講義名	臨床心理学概論		
代表ナンバリングコード	00014BG02		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目共通科目	00014BG02

担当教員
氏名
◎ 餅原 尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	病み、悩み、苦悩する人間の「みため（アセスメント）」と「かかわり（心理療法）」について学ぶ。本講義では、人間を理解することの意味、かかわりのありよう（「生きる意味」への心理支援）について臨床心理学の視点から理解するのがねらいである。 1. 「臨床心理学」とは何かを理解することができる。 2. 臨床心理学的アセスメントについて理解することができる。 3. 心理療法について理解することができる。 4. 現代の病理現象（トラウマ、自殺、虐待など）に鑑みつつ、事例等を通して学び、臨床心理学を学ぶ上での倫理やスーパーヴィジョンについて感得することができる。
授業の展開計画	必要に応じて、話題のトピックスを取り上げたり、受講生が積極的に参加できるよう、「やってみよう」方式のアセスメント、討論等を取りあげる。 精神科病院、保健所、学校（スクールカウンセリング、緊急支援、特別支援教育）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援者等）における心理臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

## 授業計画表

回	内容
第1回	臨床心理学とは何か（テキストP1～4） ・臨床心理学にもとめられる人間観（ネガティブ・ケーパビリティとポジティブ・ケーパビリティ） ・発達観
第2回	心理支援と人間観（人間理解と支援に必要な精神的風土）（テキストP4～9） ・教育観 ・臨床観
第3回	臨床心理アセスメント：人間理解の方法（テキストP11～15） ・面接法、観察法、診断基準
第4回	心理検査の意味と背景（テキストP15～18） ・「受ける側」と「する側」のありよう ・テスト・バッテリー（心理検査の種類とその組み合わせ）
第5回	心理療法と3つの治療仮説（テキストP45～48） ・精神分析療法 ・行動療法 ・人間学的心理療法
第6回	・こどもの心理療法（遊戯療法：プレイ・セラピー）（テキストP55～57）
第7回	傷つきやすい人間の心理（1）（テキストP99～103） ・自我、自己の拡散と喪失 ・自我関与

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自我の強さ</li> <li>・自我同一性拡散</li> </ul>
第8回	傷つきやすい人間の心理 (2) (テキストP103~104) <ul style="list-style-type: none"> <li>・自我、自己の拡散と喪失</li> <li>・自己実現</li> <li>・自己概念</li> </ul>
第9回	情緒障害の心理 (テキスト) P109~115 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経症的不登校</li> <li>・選択性緘黙</li> </ul>
第10回	「いじめ」現象のアセスメントと心理支援 (テキストP118~124) <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめる側」の心理</li> <li>・見て見ぬふりをする側の心理</li> <li>・いじめられている側の心理</li> </ul>
第11回	病める人間 (テキストP125~139) <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の病気 (統合失調症、神経症、心身症)</li> <li>・体の病気 (エイズ)</li> </ul>
第12回	現代社会と高齢化現象 (テキストP140~147) <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢の意味</li> <li>・病気や障害のある高齢者</li> </ul>
第13回	メンタルヘルスと人間理解 (テキストP149~163) <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情労働、共感疲労</li> <li>・惨事ストレス (GIS)</li> <li>・発達障害の苦悩と周囲の苦悩 (カサンドラ症候群)</li> </ul>
第14回	事件・事故・災害後の被災者・被害者の心理支援 (テキストP165~204) <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTSD (心的外傷後ストレス障害)</li> <li>・支援者の傷つき (GIS: 惨事ストレスなど)</li> <li>・緊急支援</li> <li>・サイコロジカル・ファースト・エイド (PFA)</li> <li>・トラウマ・インフォームド・ケア</li> </ul>
第15回	臨床心理学における倫理とスーパーヴィジョン (テキストP205~222) <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理感覚の涵養</li> <li>・スーパーヴィジョン (生涯続く自己研鑽)</li> <li>・「生きる意味」の確立</li> </ul>
履修上の注意事項	守秘義務を遵守すること。 何回でも聴講可 (毎年、新しいトピックスを取り上げながら、講義を展開する)。
準備学習 (予習・復習等)	シラバスを参照し、講義開始前にその都度、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。講義終了後はファイル (ノート) を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、臨床心理学とは何かを理解し、アセスメントと心理療法について事例を通して感得していることを中心に評価する。「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」(30%)、「臨床心理学についての理解と心理支援についての理解度、定着度をみる学期末の課題レポート」(70%)の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著 (2019) 『臨床心理学―「生きる意味の確立」と心理支援―』八千代出版 (全員購入)
参考文献	恩田彰・伊藤隆二編 (1999) 『臨床心理学辞典』八千代出版
学修のフィードバック方法	課題 (試験やレポート等) については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験 (レポート等) については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	事例等について、「シンク・ペア・シェア」の時間をもつ。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	認知症援助論		
代表ナンバリングコード	00049BG02		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目共通科目	00049BG02

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	<p>認知症がどのような疾患なのか、また認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのかを理解し、自分の立場でどのような支援ができるかを考えることができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症がどのような疾患なのか説明できる。</li> <li>2. 認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのか述べるができる。</li> <li>3. 認知症啓発のために自分に何ができるかを考え、述べるができる。</li> </ol>
授業の展開計画	<p>認知症とそのケアについての学習を中心にすすめ、それらの学習内容を踏まえた上で、後半では認知症啓発のため自分にできることを考えていく。</p> <p>高齢者ケア施設における看護師としての実務経験による具体的な例をあげながら授業を展開する。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	認知症を引き起こす病気① 認知症とは
第3回	認知症を引き起こす病気② 認知症の原因になる代表的な病気
第4回	認知症をもつ人の困りごと① 認知症が生活に及ぼす影響
第5回	認知症をもつ人の困りごと② 必要な対応
第6回	認知症をもつ人と家族の気持ち① 事例紹介
第7回	認知症をもつ人と家族の気持ち② 事例からの考察
第8回	認知症をもつ人を支える社会システム
第9回	若年性認知症
第10回	認知症をもつ人の尊厳を支えるために
第11回	認知症ケアの歴史
第12回	認知症予防
第13回	認知症啓発のために私にできること① 個人ワーク
第14回	認知症啓発のために私にできること② グループワーク
第15回	まとめ

履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題等の提出期限は厳守すること。</li> <li>2. 疑問や意見をリアクションペーパーに記載し積極的に授業に参加すること。</li> </ol>
----------	--

	<p>3. 認知症に関するニュース等に関心をもって、学習内容と関連づけて考えるよう努力すること。</p> <p>4. 本講義は認知症キャラバンメイトが担当しており、認知症サポーター養成講座も兼ねている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーターとなるためには単位を修得することが条件</li> <li>・認知症サポーターとは <ul style="list-style-type: none"> <li>：認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守ることができる応援者</li> </ul> </li> </ul>
準備学習（予習・復習等）	配布した資料は、その日の復習に活用すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	講義内容への関心や疑問、理解度を見る授業毎のリアクションペーパー(30%)、授業のテーマに応じて出された課題(70%)の総合評価とする。
テキスト	配布資料あり。
参考文献	<p>河野和彦(2016)『ぜんぶわかる認知症の事典』成美堂出版</p> <p>日本認知症ケア学会(2016)『改定4版 認知症ケアの基礎』日本認知症ケア学会</p> <p>日本認知症ケア学会(2016)『改定4版 認知症ケアの実際I:総論』日本認知症ケア学会 他</p>
学修のフィードバック方法	<p>課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。</p> <p>ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。</p>
備考	アクティブラーニングの教授法：グループワーク

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育論 I		
代表ナンバリングコード	22159SF01		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22159SF01

担当教員
氏名
◎ 今村 佳代子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能
到達目標	<p>栄養教育は、科学的根拠に基づき、人の栄養状態の維持・改善をめざして行動変容をはかり、さらに人々の健康を守るために社会環境の変容にもつながるものでなくてはならない。本講義は、管理栄養士として学習者（教育の対象者）に栄養教育を行うために、健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定し、栄養教育を実施する能力を養うことがねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養教育の概念を理解し、対象とする人や環境について説明できる。</li> <li>2. 行動科学の基礎理論を理解し、栄養教育に行動療法を利用する手段について説明できる。</li> <li>3. 栄養教育マネジメントを理解し、それぞれの過程について説明できる。</li> </ol>
授業の展開計画	管理栄養士として病院やクリニックで傷病者に対する栄養教育を実践した経験を有する教員が、栄養学や食品学の授業で得た知識を学習者にわかりやすく伝え、さらには人の行動変容にまでアプローチする手段と方法を身に付けるために、栄養教育に必要な基本的事項を講義形式で伝える。

授業計画表	
回	内容
第1回	栄養教育の概念、定義、目的、目標、対象
第2回	行動科学の定義、基本的な理論モデル
第3回	行動科学の理論とモデル
第4回	行動変容技法と概念
第5回	行動変容技法の利用方法
第6回	食行動の特性
第7回	食行動のとらえかた
第8回	栄養教育マネジメント（マネジメントサイクル）
第9回	栄養教育マネジメントで用いる理論モデル
第10回	栄養教育のためのアセスメント：意義と目的
第11回	栄養教育のためのアセスメント：種類と方法
第12回	栄養教育のためのアセスメント：情報収集の方法
第13回	栄養教育計画：プログラムの基本理論
第14回	栄養教育計画：プログラムの目標設定
第15回	栄養教育に必要な倫理観

履修上の注意事項	栄養教育論では、他の履修科目で学んだ事柄を学習者にわかりやすく伝える術を学ぶため、他の履修科目については、十分に理解しておくこと。
準備学習（予習・復習等）	単位認定試験は広範囲となるため、毎回の講義ごとに復習をして講義内容を定着させること。特に、国家試験に出題される事項については、問題と照らし合わせて確認をすること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験90%、学習・受講態度10%
テキスト	武見ゆかり、足達淑子、木村典代、林芙美著（2021）『栄養・健康科学シリーズ 栄養教育論 改訂第5版』 南江堂（全員購入）
参考文献	松本千明著（2002）『健康行動理論の基礎』 医歯薬出版 畑栄一、土井由利子編著（2009）『行動科学 健康づくりのための理論と応用』 南江堂
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：調査学習、ピア・ティーチング

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養管理学 I		
代表ナンバリングコード	22249SG02		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22249SG02

担当教員
氏名
◎ 木之下 道子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能、総合的な学習経験と創造的思考力
到達目標	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理法を理解することがねらいである。 ①各疾患の概要、病因、症状、診断基準、病態により変動する臨床検査データを読み取ることができる。 ②栄養アセスメントをおこない食事管理目標を設定することができる。 ③食事療法を実施し、効果、判定をおこなう一連の流れを習得する。
授業の展開計画	身体の機能の働き、各疾患の病態栄養、食事療法を含む栄養ケアマネジメントを講義形式で行う。病院の管理栄養士としての実務経験を取り入れた授業を行う。

授業計画表	
回	内容
第1回	①傷病者や要介護者への栄養 ②医療・介護制度について・算定の違いについて
第2回	①管理栄養士の役割と職業倫理 ②医療と臨床栄養 ③福祉・介護と臨床栄養
第3回	臨床栄養に関連する検査値
第4回	アセスメントの意義と方法
第5回	栄養ケアの目標設定と計画作成 傷病者、要支援者・要介護者への栄養教育
第6回	傷病者・要介護者の栄養補給法：経口栄養補給法、経腸栄養補給法、経静脈栄養補給法
第7回	モニタリングと再評価 薬と栄養・食事の相互作用
第8回	栄養ケアの記録：問題志向型システムの活用 ①疾患・病態別栄養ケア・マネジメント：栄養障害(ケーススタディ)
第9回	②疾患： 肥満、メタボリックシンドローム(ケーススタディ)
第10回	③疾患： 糖尿病(ケーススタディ)
第11回	④疾患： 脂質異常症、高尿酸血症、痛風(ケーススタディ)
第12回	⑤疾患： (消化器疾患) 口内炎・舌炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸炎(ケーススタディ)
第13回	⑥疾患： (消化器疾患) 炎症性腸疾患：クローン病・潰瘍性大腸炎・過敏性腸症候群、便秘(ケーススタディ)
第14回	⑦疾患： (消化器疾患) 肝炎、肝硬変、脂肪肝、非アルコール性脂肪性肝疾患・非アルコール性脂肪肝炎(ケーススタディ)

第15回	⑧疾患：（消化器疾患） 胆石症・胆嚢炎、膵炎(ケーススタディ)
履修上の注意事項	各器官などを自分の体に置き換えて覚えていくとよい。学習態度も評価の対象となる。
準備学習（予習・復習等）	授業の展開計画に該当するテキストの箇所を事前に読み、専門用語の意味を調べ理解しておくこと。理解が来ているか小テストあり。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	期末試験80%、学習態度20%
テキスト	上原誉志夫・明渡陽子・田中弥生・岡本智子編著(2023)『最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際』光生館（前期購入）
参考文献	日本糖尿病学会編・著（2022）『糖尿病治療ガイド』文光堂
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法： ピア・ティチング、反転授業等

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	運動生理学		
代表ナンバリングコード	22349SB04		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22349SB04

担当教員
氏名
◎ 松元 圭太郎

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能、態度・志向性
到達目標	<p>健康な生活を送るためには、運動・栄養・休養の3つが必要不可欠である。近年、運動不足が大きく関わっている生活習慣病やメタボリック症候群が大きな社会問題となっており、これらの疾病の予防・改善の観点から運動生理学の見識を深めることは管理栄養士・栄養士にとって重要である。運動・スポーツの側面から生理学を学び、健康の維持増進に対する運動の効果や役割に対する理解を深め、管理栄養士・栄養士としての資質を高めることが本講義のねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動・身体活動が、健康に及ぼす影響や肥満・糖尿病などの生活習慣病に対する効果について理解し、説明できる。</li> <li>2. 運動・身体活動時のエネルギー代謝について理解し、説明できる。</li> <li>3. 運動により必要量が増加する栄養素やその機序について理解し、説明できる。</li> <li>4. 健康づくりのための身体活動基準2013と健康づくりのための身体活動指針の概要について理解し、説明できる。</li> </ol>
授業の展開計画	<p>製薬会社での運動介入試験およびスポーツ栄養補助食品の研究開発の実務経験を活かした講義内容を含む。  “応用栄養学”の分野のうち、“運動・スポーツと栄養”と“環境と栄養”など、運動・身体活動が身体に及ぼす影響について、原則教科書に沿って15週形式で下記のとおり授業を行う。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	スポーツ栄養の基礎研究
第2回	環境への適応： ストレス、特殊環境
第3回	健康増進と運動： 運動不足病
第4回	運動・スポーツとエネルギー： エネルギー代謝系
第5回	運動・スポーツとエネルギー： 運動時のエネルギー代謝
第6回	運動と筋・骨系
第7回	運動と循環器系
第8回	運動と呼吸器系、神経系
第9回	運動と自律神経系、内分泌系
第10回	運動と体温調節機構： 熱中症と水分・電解質補給 スポーツと栄養： 栄養素、運動時の栄養補給、摂取タイミング
第11回	国民健康増進の取り組み： 健康日本21、健康づくりのための身体活動基準2013
第12回	運動負荷評価法、運動処方

第13回	運動療法： 肥満、糖尿病
第14回	運動療法： 高血圧、骨粗鬆症、脂質異常症
第15回	運動障害 総復習
履修上の注意事項	内容を理解するよう努めること。 わからない点は積極的に質問すること。
準備学習（予習・復習等）	毎回、授業の最初に小テストを実施するので、授業ごとに復習し、講義内容を定着させること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	評価は、「単位認定試験」（80%）、「小テスト」（10%）、「学習・受講態度」（10%）の総合評価とする。
テキスト	山本順一郎 編（2018）『運動生理学（第4版）』 化学同人 （全員購入）
参考文献	高松薫・山田哲雄 編（2021）『三訂 運動生理・栄養学』 建帛社 朝山正己ら 編著（2020）『イラスト 運動・スポーツ生理学』 東京教学社 勝田茂 編（2015）『入門運動生理学（第4版）』 杏林書院
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	応用栄養学 I		
代表ナンバリングコード	22259SE01		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22259SE01

担当教員
氏名
◎ 今村 佳代子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能・態度・志向性
到達目標	応用栄養学の分野では、人の一生を、母性期→乳児期→幼児期→学童期→思春期→成人期→高齢期というライフステージとしてとらえ、各時期の身体的、精神的特性をつかみ、栄養のあり方を学ぶことで、各ライフステージにおける栄養マネジメントの考え方を理解することを目標とする。 1. 栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。 2. 食事摂取基準の基本的事項を説明できる。 3. 妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメントについて説明できる。 4. 新生児期・乳児期の栄養ケア・マネジメントについて説明できる。 5. 成長期（幼児期・学童期・思春期）の栄養ケア・マネジメントについて説明できる。
授業の展開計画	管理栄養士として医療機関で様々な年代の人を対象に栄養ケアの実践経験を有する教員が、各ライフステージの身体的・精神的特徴と栄養のあり方について講義形式で伝える。

授業計画表	
回	内容
第1回	栄養ケア・マネジメント：意義と目的、アセスメント
第2回	栄養ケア・マネジメント：栄養ケア計画、モニタリング、評価、フィードバック 食事摂取基準の基礎
第3回	食事摂取基準の活用
第4回	ライフステージにおける食事摂取基準
第5回	妊娠期・授乳期の身体的特性
第6回	妊娠期・授乳期の栄養の特徴
第7回	妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア
第8回	新生児期・乳児期の身体的特性
第9回	新生児期・乳児期の栄養の特徴
第10回	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア
第11回	幼児期・学童期の身体的特性
第12回	幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア
第13回	学童期の栄養アセスメントと栄養ケア
第14回	思春期の身体的特性
第15回	思春期の栄養アセスメントと栄養ケア

履修上の注意事項	生化学や基礎栄養学については十分に理解をしておくこと。
準備学習（予習・復習等）	講義前にテキストの該当箇所には目を通しておくこと。 単位認定試験は広範囲となるため、毎回の講義ごとに復習をして講義内容を定着させること。 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験 90%、学習・受講態度 10%
テキスト	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美編著（2020）『健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改訂第7版』南江堂（全員購入）
参考文献	必要に応じてプリントを配布する。
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：調査学習、ピア・ティーチング

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	看護学概論		
代表ナンバリングコード	22449SL05		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
単位	1		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22449SL05

担当教員
氏名
◎ 園田 麻利子
小楠 範子
塩満 芳子
福岡 美和

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎態度・志向性 ○知識・理解 ○汎用的技能
到達目標	<p>看護職はどのような場所でどのような仕事を行う専門職業人なのか、果たす役割は何か、法的にどのようなことに責任を負うのかということを講義、演習を通して学習し、自分が専門とする栄養学との関連を理解する。願いは、一人の専門職として、また一人の人間として、お互いを尊重しながら保健・医療・福祉チームの一員として協働できるようになることである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門職の条件を述べることができる。</li> <li>2. 看護職と管理栄養士の立場から、それぞれの役割と機能を説明することができる。</li> <li>3. 保健・医療・福祉チームにおける多職種連携の在り方を考察することができる。</li> </ol>
授業の展開計画	<p>看護職は専門職としてどのようなことに責任を負って活動するのか、その役割と機能について全体的な把握を試みる。また、栄養士と看護職がどのように連携できるかを講義やグループワーク、演習を通して考察する。</p> <p>この授業は、病院における看護師としての実務経験を含んだ授業内容になる。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	学習活動に関するオリエンテーション 【園田】 看護実践に必要な4つの概念（看護・人間）
第2回	看護実践に必要な4つの概念（健康・環境） 【園田】
第3回	看護の基本的役割 【園田】
第4回	看護実践の方法 看護技術 【小楠】
第5回	看護実践の方法 対人コミュニケーション 【小楠】
第6回	専門職とは 専門職の特性 【園田】
第7回	専門職とは 職業倫理 【福岡美和】
第8回	専門職とは 倫理的問題への対応 【福岡美和】
第9回	保健・医療・福祉システム 看護の提供のしくみ 【塩満】
第10回	保健・医療・福祉システムと職種の役割（介護を含む） 【塩満】
第11回	看護学と管理栄養士の関係 小児と食事 【福岡美和】

第12回	看護師と管理栄養士の関係 妊産婦と食事 【福岡美和】
第13回	看護師と管理栄養士の関係 高齢者と食事 【小楠】
第14回	医療安全 【園田】
第15回	チーム医療と多職種連携・まとめ 【園田】
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 レポートは提出期限を厳守する。</li> <li>2 看護学実習の都合上、不規則開講となることもあるため日程に注意する。</li> <li>3 ディスカッションや演習をしながら授業を進めるため、履修者が5人以下の場合は開講できない場合がある。</li> </ul>
準備学習（予習・復習等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 各講義において必要な事前課題または事後課題を提示する。</li> <li>2 医療や看護について興味・関心のある項目は具体例として講義で取り上げるため、話題を提供できるように準備する。</li> <li>3 1回の授業に対し1時間程度の時間外学習をする。</li> </ul>
評価方法	<p>以下の内容の課題レポートで評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 看護職と管理栄養士の立場から、それぞれの役割と機能を説明することができる。(50%)</li> <li>2) 保健・医療・福祉チームにおける多職種連携の在り方を考察することができる。(50%)</li> </ul>
テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献	<p>田中幸子編著（2022）『看護学概論 第5版』医歯薬出版株式会社  茂野香おる著（2021）『系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論』医学書院</p>
学修のフィードバック方法	<p>課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。  ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。</p>
備考	アクティブラーニングの教授方法：演習、グループワーク、グループディスカッション

[ウインドウを閉じる](#)